

JASRAC講座 ミュージック・ジャンクション
世界を旅する音楽～第1回「ハワイの音楽と祈り」～
(12月17日 けやきホール)

世界各地の音楽にスポットをあて「ワールドミュージック」シリーズとして2014年まで実施したJASRAC講座ミュージック・ジャンクション。今年度からは、海外での活動経験が豊富な演奏者などの視点を通じて世界各地の音楽や文化などを紹介する「世界を旅する音楽」シリーズとして開催する。

第1回は、ミュージシャンでクム・フラ(フラの正統的継承者)のサンディーさんとハワイアンギター奏者の山内アラニ雄喜さんを迎え、神への感謝の祈りから始まったといわれるハワイの音楽を紹介した。この模様は「ニコニコ生放送」で配信し、およそ17,600人が視聴した。

【出演】サンディー、山内アラニ雄喜、サンディーズフラスタジオの皆さん 【司会】佐野啓子 【監修】北中正和〈音楽評論家〉

■第1部 Kahiko(古典フラ)

古典フラは「Kahiko(カヒコ)」と呼ばれ、クム・フラが神々の伝説などをオリと呼ばれる歌で表現し、“パフドラム”(太鼓)などのリズム伴奏で神々に感謝する踊りとされている。第1部ではサンディーさんがフラダンサーとともに古典フラを披露した。



クム・フラのサンディーさん

フラダンサーの打楽器“プニウ”は2つに割ったココナツの実にサメの皮を張ったもの。「神々に想いを届ける楽器は、タヒチから入ってきた“パフドラム”的」といわれているが、プニウはそれ以前からハワイにあったという説がある」とサンディーさんが説明。さらに、神話上の神殿をテーマにした『Ha'aheo Pahukini』をプニウの音を響かせながら歌唱した。



また、古典フラでは必ず子孫繁栄を祈る。サンディーさんは「フラが途絶えないように私も子孫を育て、日本に本当のフラが根付くことや人々の平和を祈っている」と語り、『Punana Ka Manu』を歌った。

■第2部 Auana(現代フラ)/ Tahiti

第2部では、ギターやウクレレなどの楽器を伴奏に踊る現代フラ「Auana(アウアナ)」が紹介された。

はじめに山内アラニ雄喜さんは、ご自身のトリプルネックの楽器について「ハワイで生まれた順に上からスラック・キー・ギター、ウクレレ、スチール・ギターとなっていく」と説明した。スラック・キー・ギターは、1830年代に、

増えすぎた牛の対策としてメキシコから招かれたカウボーイがギターを持ち込んだことが起源とされている。スラック(Slack)は“緩める”という意味で、開放弦の状態で弾いても和音が出るようになっているため、「初めて弾いてもハワイの風を感じられる」と解説し、東日本大震災後に作曲した『E Pili Mau』(いつまでも一緒に)などを演奏した。



ハワイアンギター奏者の山内さん

つづいて、再登場したサンディーさんが山内さんとともに、日本からの移民の歴史、ハワイのクリスマス事情、ハワイで踊られているタヒチアンダンスの由来などを紹介。山内さんはハワイ音楽について「旋律が沖縄の音楽に似ているため日本人にも親しみがある。すべてメジャーコードで終わるので、みんながハッピーになれる」とその魅力を語り、『Papalina Lahilahi』などを演奏した。



最後に、「ALOHA」という挨拶の頭文字は、ハワイ語で思いやり、調和、喜び、謙虚、忍耐という意味がある」と語り、観客全員が手をつないで『Hawai'i Aloha』を歌った。



この模様は、ニコニコ動画の「JASRACちゃんねる」(<http://ch.nicovideo.jp/jasrac>)で配信しています。